

# 隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第12回

森の彫刻家 上床利秋

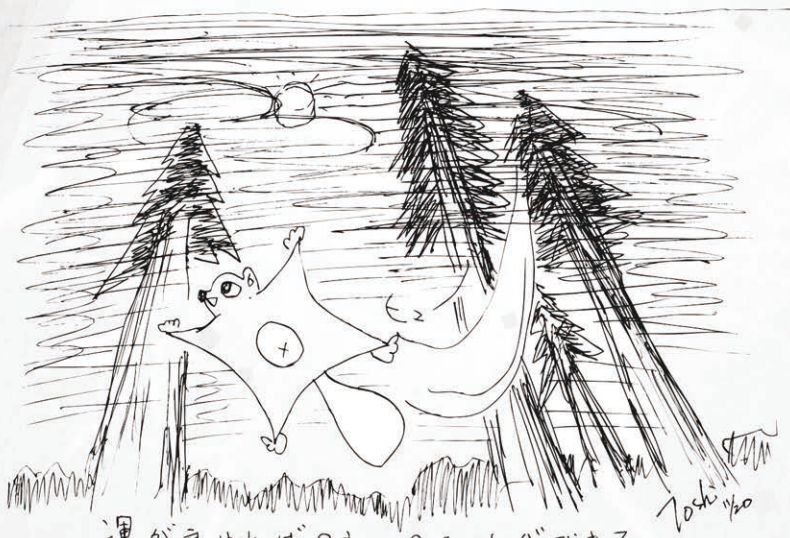
## 森の中から一反木綿

杉アトリエの周辺がすっかり暗くなり、山影から月がきれいな顔を覗かせる頃になると、森の中から「わあ、へえっくるるっ」という意地汚そうな野獣の音が聞こえてくることとがあります。ちょうど中秋の満月、ク

リの木に実がいっぱいになる頃が良く聞こえてくるようです。時には杉の木のとっぺんから、またある時は木の根元付近から。このごろは毎晩のようにやってきます。

姿が見えないので最初は不気味でした。ところがある夜、月影にその姿はするすると杉の木を登っていききました。猫みたいだけどしっぽがぶつといぞ。いつ、今のが鳴き声の主！もう現れないのかなと思いきや、木のてっぺんあたりからシユワッと座布団にしっぽ

のついた化け物が飛んできてアトリエの屋根にダイビング。これはもう間違いないく鹿兒島に



運が良ければ月夜に見ることができる。

には意外にも多く生息しているようです。なにぶん暗くなった山に出没し、なかなか姿を見ないのであまり話題にならないようです。でも、調べてみるとなかなか可愛い姿をしています。いつかは飛んでいる姿を彫刻してみたいものです。

霧島ホテルの杉林でもムササビを見ることがあるようでパンフレットには紹介されています。以前私が出水市の山奥にある温泉力シカ荘に泊まった時にも、夜、天井裏をムササビが走り回っていました。漫画ゲゲの鬼太郎に出てくる正義の妖怪一反木綿は鹿兒島弁を話すらしいですよ。四角い座布団がダイビングして十メートル以上遠くの木に移っていく姿を暗闇で見た昔人は、木綿のお化けが飛んで行ったように見えたのでしょうね。

霧島市のマスコットに指定されてもいくらかのかわいい顔の小動物は森の中で元気に活躍しています。でも最初にお話ししたように、決してかわいい声ではありません。

棲む妖怪、一反木綿です。地域の人はこの妖怪をモマとも呼んでいるようです。正式にはムササビらしいのですが、霧島の山々